

日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No.13

コロナ禍で生じる 業況の二極化

川の桜の見頃はGW前半あたりでしょうか。

先日、日銀旭川事務所では、道北地域短観の3月調査結果を公表しました。企業の景況感を表す業況判断DIは+5と、3期連続の改善となりました。業況判断DIは、道北地域の企業に、最近の業況について、「良い」「さほど良くない」「悪い」の中から回答した企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いたものです。

北海道でも桜が開花しました。北海道で多く見られるエゾヤマザクラの鮮やかなピンク色は、コロナ禍で沈みがちな気分を少しは明るくさせてくれるかもしれません。今年は市内の旭山や神楽岡公園などで火気使用が禁止され、桜の下でのシンギスカンはお預けですが、その分、じっくりと本来の花見が楽しめます。旭

今回の短観の特徴は、

製造業と非製造業の二極化です。経済の二極化を示す意味で使われる、いわゆる「K字」が道北地域でも見られました。製造業の業況判断DIは、+38と2期連続の改善の一方、非製造業の同DIは、▲2と3期振りの悪化です。両者の差も40と3年半振りの水準に開きました。

製造業で業況が良いと回答した企業では、巣ごもり需要を捉えた商品の

生産、ネット直販や営業努力による売上増加、高い技術力による受注獲得といった動きが見られました。

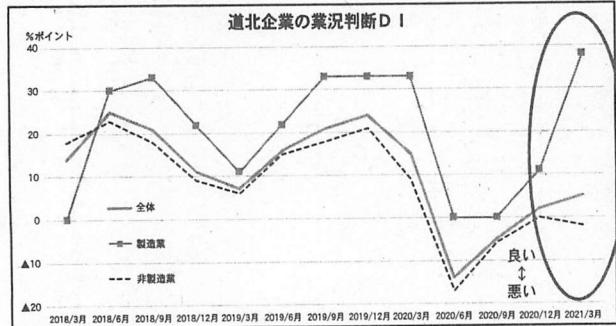
一方、非製造業で業況が悪いと回答した企業では、観光や娯楽需要の減少から、売上を大きく減らす動きが目立ちました。もっとも、非製造業の企業全てが、業況が悪いと回答した訳ではありません。

でなく、非製造業の同一業種内でも見られます。従来から、同一業態、同一業種の中でも企業の業況に違いはあったはずですが、最近では、企業ごとの業況の違いが、より明確化してきているように窺われます。

こうした違いが生じる理由にはさまざまです。そもそも感染症の影響やそのインパクトは業種によって大きく異なります。とくに、宿泊飲食サービス業は負の影響を大きく受けています。もっとも、そうした業種の企業でも、業況は悪くないとする先がある。逆に、負の影響を受けにくい業種でも、業況が悪いとする先もありま

す。企業により置かれた状況が異なるため、一概には言えませんが、企業戦略や感染症への対応の仕方によって、業績に違いが生じているようにも思われます。

資料出所：日本銀行旭川事務所



傾向は、業種間だけでなく、非製造業の同一業種内でも見られます。従来から、同一業態、同一業種の中でも企業の業況に違いはあったはずですが、最近では、企業ごとの業況の違いが、より明確化してきているように窺われます。

こうした違いが生じる理由にはさまざまです。そもそも感染症の影響やそのインパクトは業種によって大きく異なります。とくに、宿泊飲食サービス業は負の影響を大きく受けています。もっとも、そうした業種の企業でも、業況は悪くないとする先がある。逆に、負の影響を受けにくい業種でも、業況が悪いとする先もありま

す。企業により置かれた状況が異なるため、一概には言えませんが、企業戦略や感染症への対応の仕方によって、業績に違いが生じているようにも思われます。

道北の企業、とりわけ対面型サービスの企業にとっては、厳しい状況が続きますが、行政による支援を最大限活用しつつ、感染症で変化した需要を捉えるための戦略の策定と実行、需要が減少しても利益を生み出せる企業体質の強化に取り組み、何とかこの難局を乗り越えてほしいと思います。



【大賀健司(おがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。業務局企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て、二〇二〇年に旭川事務所長に就任。